

平成 21 年 3 月 25 日

平成 20 年度学校運営連絡協議会実施報告書

東京都立小石川高等学校長
栗原 卯田子

1 組織

- (1) 都立小石川高等学校運営連絡協議会(全日制課程)「21 開拓委員会」と呼称する。
- (2) 事務局の構成 総務主任 = 事務局長、総務部員 2 名 計 3 名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務主任兼務)、主幹教諭(進路指導主任兼務)、
生活指導主任、総務主任 計 7 名
- (4) 協議委員の構成
大学院教授(大学関係者)2 名、PTA 会長(保護者代表)1 名、同窓会代表 1 名、
近隣小学校長(地域代表)1 名、近隣中学 PTA 副会長(中学代表)1 名、
区教委統括指導主事(区教委関係者)1 名、 計 7 名

2 平成 20 年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第 1 ~ 3 回)の開催日時、会場、出席者、内容、その他
- 第 1 回 平成 20 年 6 月 27 日(金) 本校校長室、内部委員 6 名、協議委員 6 名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、「21 開拓委員会」趣旨説明、
学校経営計画、学校評価について、各部からの報告、
協議・意見交換：「小石川高校に何を望むか」(生活指導について)
- 第 2 回 平成 20 年 10 月 24 日(金) 本校校長室、内部委員 7 名、協議委員 5 名
学校評価の趣旨説明、各部からの報告
協議・意見交換：学校評価アンケート案
- 第 3 回 平成 21 年 1 月 23 日(金) 本校校長室、内部委員 6 名、協議委員 5 名
学校評価について評価委員会からの説明、学校長謝辞
協議・意見交換：評価結果の検討、次年度への提言
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
- 第 1 回 平成 20 年 10 月 24 日(金) 本校校長室、内部委員 2 名、協議委員 1 名
今年度の学校評価の内容、項目の検討と決定
- 第 2 回 平成 21 年 1 月 23 日(金) 本校校長室、内部委員 2 名、協議委員 2 名
アンケート集計結果の分析・考察と協議、提言

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点
今年度は本校の生活指導を中心にアンケートを実施することにした。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
- | | | | |
|--------|----------------|-------------|-----------|
| ・実施時期 | ： 平成 20 年 11 月 | | |
| ・対象と規模 | ： 全生徒(485 名) | 全保護者(485 名) | 全教員(29 名) |
| ・回収率 | ： 生徒(90%) | 保護者(51%) | 教員(100%) |

(3) 主な評価項目

生活指導を中心に、生徒・保護者・教員に対して17項目のアンケートを行った。
授業評価の項目については、生徒対象に初回(平成13年度)より続けている。

(4) 評価結果の概要(アンケートの分析を中心として)

ア 生活指導全般について

- ・生活指導の方針が明確に示されているかについては、生徒の65%弱、保護者の80%、教員の65%強が肯定的であった。
- ・生活指導に共感できるかについては、三者とも概ね8割が肯定的であった。
- ・基本的な生活習慣を身につけられる指導の必要性については、生徒の50%弱、保護者の60%弱が肯定的であるのに対し、教員は80%と高率であった。
- ・3年間クラス替えがないことについては、生徒・保護者の80%、教員の75%が肯定的であった。
- ・心身の悩みに対応できる体制については、生徒の50%弱、保護者の65%弱、教員の70%強が肯定的であった。
- ・芸能祭・体育祭・創作展をまとめて行事週間として行うことについては、生徒の80%強、保護者の85%強が有益であると回答しているが、教員は65%と低率であった。
- ・中等生と一緒に学校行事を行うことについては、生徒の60%弱、保護者の65%強が有益であると回答しているが、教員は80%強と高率であった。中等生と一緒にクラブ活動を行うことについては、生徒の60%強、保護者の55%が有益であると回答しているが、教員は70%弱と高率であった。17年度(中等教育学校開校前)にとったアンケートでは、学校行事・クラブ活動共に7割の生徒が中等生と一緒に活動することについて否定的であった。
- ・平日のクラブ活動が18時まで延長できることについては、生徒・保護者の85%弱が有益であると回答しているが、教員は65%強と低率であった。
- ・本校の教育環境(施設・設備)については、生徒の70%強、保護者の80%強が充実していると回答しているが、教員は30%弱と低率であった。 [19年度は生徒60%弱・保護者70%強・教員40%弱]
- ・学校行事・クラブ活動等を通して、充実した学校生活がおくれていると回答した生徒は85%、保護者は90%強、教員は100%であった。

イ 授業全般について

- ・教員の授業に対する工夫については75%弱の生徒、80%弱の保護者、80%弱の教員が肯定的な評価をしている。熱意については、85%弱の生徒、90%弱の保護者、80%の教員が肯定的な評価をしている。三者とも工夫より熱意を高く評価していると言える。また、19年度と比較すると、工夫、熱意いずれについても、生徒の評価が高くなり、保護者はほぼ同じ評価をしている。

工夫 [19年度は生徒65%弱・保護者80%弱・教員85%強]

熱意 [19年度は生徒80%弱・保護者90%弱・教員90%強]

- ・生徒の授業に対する取り組みについては、熱心に取り組んでいると回答している生徒は50%、保護者は70%強、教員は70%弱であり、生徒の割合が低い。しかし、19年度と比較すると、いずれも高くなっている。 [19年度は生徒45%強・保護者65%強・教員60%弱]

ウ 進路指導について

- ・補習・講習を活用できる体制については、三者とも肯定が概ね65%と評価が低かった。
- ・外部模試・校内実力テストの実施時期については、保護者の90%弱、教員の80%弱が適切であると回答しているが、生徒は65%強と低率で、特に3年生の評価が低かった。
- ・大学と連携して行っている入試対策説明会・分野別模擬講義については、生徒の80%弱、保護者の95%弱、教員の75%弱が肯定的であった。

エ 自由意見

- ・中等教育学校に関する意見が多数寄せられたが、高等学校についての協議会の為今回は議論せ

ず、校内の貴重な資料として活用するに留めた。

(5) 評価結果の考察・分析

ア 生活指導全般について

- ・本校の生活指導方針は支持されているが、その指導方針を明確に示していないと思っている生徒・教員が多かった。学校が目指している生徒像を明確に示していく必要がある。
- ・基本的な生活習慣を身につけられる指導の必要性については、「中等生には最低限の指導が必要だが、高校生には自分で判断して行動してほしい」「躰は家庭で行うもの」等の自由意見が多かった。回答は、中等生に対する指導の必要性も含めたものと思われる。アンケートをとる際に、「高校生に関する指導」という説明を付け加えるべきであった。発達段階に応じた指導が必要になる。本校の自由とは、生活習慣がいい加減ということではなく、何かを行う時にその都度自分で選択して判断できるという自由さであり、教員にはそうした自由を尊重したいという声が多い。
- ・3年間クラス替えが無いことについては支持されている。生徒にとっては深い人間関係を作ることができ、行事週間でのもたまりにも成長が感じられる。担任にとっても3年間同じ生徒を良く見ることができる。しかし少数意見ではあるが「クラス替えをした方が交流関係が広がる」「クラスに馴染めない生徒もいる」等の意見もあった。学年規模は少なくなっているため、行事・展開授業等で他クラスとの関係を広げる工夫も必要である。
- ・心身の悩みに対応できる体制が必要である。中等教育学校にカウンセラーが週1回来校しているので、高校生の相談にも対応している。悩んだ時の受け皿ではなく、予防的な方策も必要である。カウンセラーが来校している高校は少ないが、継続してカウンセラーの必要性を都に訴えていく必要がある。又、3年間継続して変わらないクラスメート・担任の存在も大切になってくる。
- ・行事週間については、3年生が行事週間でエネルギーを使ってしまい浪人に繋がるという心配はあるが、3つの行事を離してしまうと勉強に集中できなくなる可能性もある。中等生の体力的な問題で、体育祭を別の時期に実施することは考えられる。中等生と一緒に活動することについて生徒・保護者の評価は低かったが、多くの中高一貫校は一緒に実施しているのもうしばらく様子を見た方が良い。どの行事も生徒主体に運営され、高校生は良く中等生の面倒を見、中等生も良く高校生についてきている。
- ・クラブ活動については、種目によって中高一緒に活動できないものもあるが、中高一緒に仲良く活動しているクラブもある。活動時間延長については、否定的意見(少数意見)が「19時までの延長希望」と「学習時間が確保できないので活動時間延長反対」の2つに分かれた。
- ・本校の教育環境(施設・設備)については、生徒や保護者以上に教員の側に不満が多い。この傾向は16年度以降変わっていない。中等教育学校の併設に伴い、教室数の不足、体育館・グラウンドの使用状況等に不自由さを感じている。改修希望というよりも、他の中高一貫校のように別校舎・施設を要望していく必要がある。
- ・充実した学校生活が送れているかどうかについて、これが小石川の包括的評価であるとすればかなり評価が高く、強く支持されている。本校の教育に対して生徒・保護者が期待し、満足していること、教員が本校の教育に自信を持っていることが伺える。

イ 授業全般について

- ・協議委員から「教員が熱心に授業を行うのは当たり前」という指摘があり、今年度の教員に対する質問項目を今までの「熱心に授業を行っている」から「自分の熱意が生徒に伝わっている」に変更した為、教員の自己評価は昨年より低くなっていると思われる。
- ・生徒の授業に対する取り組みは、生徒自身の評価が低かった。忙しくて予習・復習に手が回らない、生徒の求めている水準が高い等が考えられる。半数近い生徒が授業を大切にしていないということではなく、真面目に答えた自分自身の気持ちの表れと思われる。保護者・教員は生徒を信頼していることが分かる。来年のアンケートでは、「予習・復習を行っている」「授業に熱心に取り組んでいる」の2項目に分けた方が良い。

ウ 進路指導について

- ・補習については、年々改善されてはいるがまだ評価が低い。3年生については多く実施されているが、1・2年生については少ないと思われる。教員が多忙であることが大きな原因である。苦手意識を持ち始めた時に手助けをする必要がある。生徒が直接教科担当者に要望を出した方が良いとの意見が寄せられた。なお、実施時期及び時間帯（特にクラブ活動との関係）・内容等については、生徒の要望を考慮に入れた上で計画する必要があると思われる。
- ・外部模試については、秋に成績が下がる傾向にあるので急遽1回増やして振替休日に入れ、年3回実施した。実施時期の評価については、休日実施への反発がうかがえる。なお来年度は平日実施を予定している。3年生については、昨年まで全く実施していなかったが、今年は1回実施。しかしさらに回数を増やしてほしいとの要望があった。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

中等教育学校開校3年目を迎え、さまざまな課題が出てきている。現在、中等生の後期課程進級に当たって校則等の検討を生活指導検討委員会で行っているが、この時期に生活指導についてのアンケートを生徒・保護者・教員対象に実施・分析できたことはとても大きな意味があった。「小石川の自由とは何か」という重要なテーマを基に検討し、小石川高校の素晴らしい伝統を中等教育学校へと継承していく点、改善が必要な点を明らかにできた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

本校は創立以来「立志・開拓・創作」を校是とし、多くの人材を輩出してきた伝統校である。生徒達の自主・自律の精神を尊重し、その全人的成長を促す手助けを基本方針とする生活指導は、生徒・保護者・教員に強く支持されていることが今回のアンケート結果からも確認できた。その一方で、行事・クラブ活動のあり方については、今後も継続した議論が必要である。又、カウンセラーの配置、別校舎・施設については、継続して都へ要望を出す必要がある。中等教育学校への移行期にどう対応していくのか考え、最後の小石川高生が気持ち良く卒業していけるよう今まで以上に配慮する必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・生徒・保護者に対して機会あるたびに指導方針を説明し、共通理解を図ること
- ・ホームルーム・保護者会等を通じて、生徒・保護者の要望を具体的に把握すること

(2) 学習指導

- ・授業アンケートを活用し、授業のねらい・方針等を生徒に説明し、理解させること
- ・生徒が質問しやすい雰囲気作りを心がけ、補習等で個別指導の機会を増やすこと

(3) 進路指導

- ・1・2年生の補習・講習を増やし、実施時期等も検討すること
- ・模擬試験の実施時期・回数・業者選定について検討すること

(4) 教職員

- ・興味・関心が持てる授業へ向けて工夫すること
- ・校内研修委員会等を通じて、教員同士が生徒の現状について情報交換し共通理解を深めること

(5) 施設・設備

- ・校内研修委員会等を通じて、具体的に指摘できる機会を設けること

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 協議委員回答

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	わからない	無回答
4	1	1				1